

SS先生の成長

2023.11.2

本校に初任者として赴任してきたSS先生は、現在3年目となり、3年生の学級担任、3年生の英語科担当教員として活躍している。3年前に颯爽と登場したと言いたいところだが、そんなことはなかった。大学を3月に卒業しての4月である。新入社員と同じである。おっかなびっくりといったところだった。

ところが、今ではだいぶ余裕が出てきた。1年目から、その働きぶりには目を見張るものがあった。とはいっても、いかにもやっていますという感じではなかった。まわりの動きを見ながら、今、自分は何をすればよいのかを考えながら、地道に着実に仕事をこなしていった。そして、仕事を覚えていった。そんな彼のことを、まわりの先生方は認め、感謝もしていた。

2年目になり、2年次フォローアップ研修の研究テーマとして「逆向き設計」理論に基づく英語の授業を取り上げた。研究授業を3回行い、研究作品としてまとめた。幸いにも、評価していただき、福島市内の先生方に向けて発表の機会もいただいた。その発表は、シンプルでわかりやすかった。余計なことを言わないのである。

3年目を迎え、逆向き設計理論による英語の授業を継続することを確認した。7月には、福島地区中学校教育研究会英語科部会授業研究会の授業者となった。参観していただいた先生方からアドバイスをいただいた。7月25日に開催された福島地区中学校教育研究協議会英語科部会では実践発表の機会を得た。それをもとに、8月27日のF-L a b o（リーディングスキルの勉強会）でも発表した。その発表を聞いたが、相変わらずシンプルかつわかりやすい。パワーポイントのスライドも詰め込みすぎしていない。きっと、何が大事なのかを理解しているのである。

今までに、何回もの研究授業を行い、発表機会も3回はあった。これでいい。彼の場合、2年目と3年目に、成長するための舞台が用意されていった。他の2年目や3年目の先生方はどうなのだろうか。1年目は、初任者研修の時間が多いからよい。ところが、2年目、3年目と、急に何もなくなっていないだろうか。伸びるためには、3年目までが重要である。3年目までで、その後の伸びていく角度が決まる。

SS先生は、初めての3年生担任をしている。これからが、3年生一人一人の進路実現へ向けて大事な時期となる。進路事務作業はもちろんのこと、生徒一人一人とどのくらい話をし、保護者の考えも聞き、最後は生徒自身が決めることができるように、いかに生徒に伴走できるかである。ここからは、今まで以上に、彼が持っているハートの出番である。教育は心が決める。